

Quick調査レポート 「一般内科医における リフィル処方箋の意識調査」

2022年7月

この調査について

- 令和4年（2022年）度の診療報酬改定において、医薬品の適切な使用の推進として、「症状が安定している患者について、医師の処方により、医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋の仕組み」が設けられることになりました。**このたび当社では、一般内科の医師に対して、2022年7月にリフィル処方箋についての意識調査を実施しましたのでご報告します。**

（株式会社インテージヘルスケア Quick Survey室）

● 調査結果サマリー

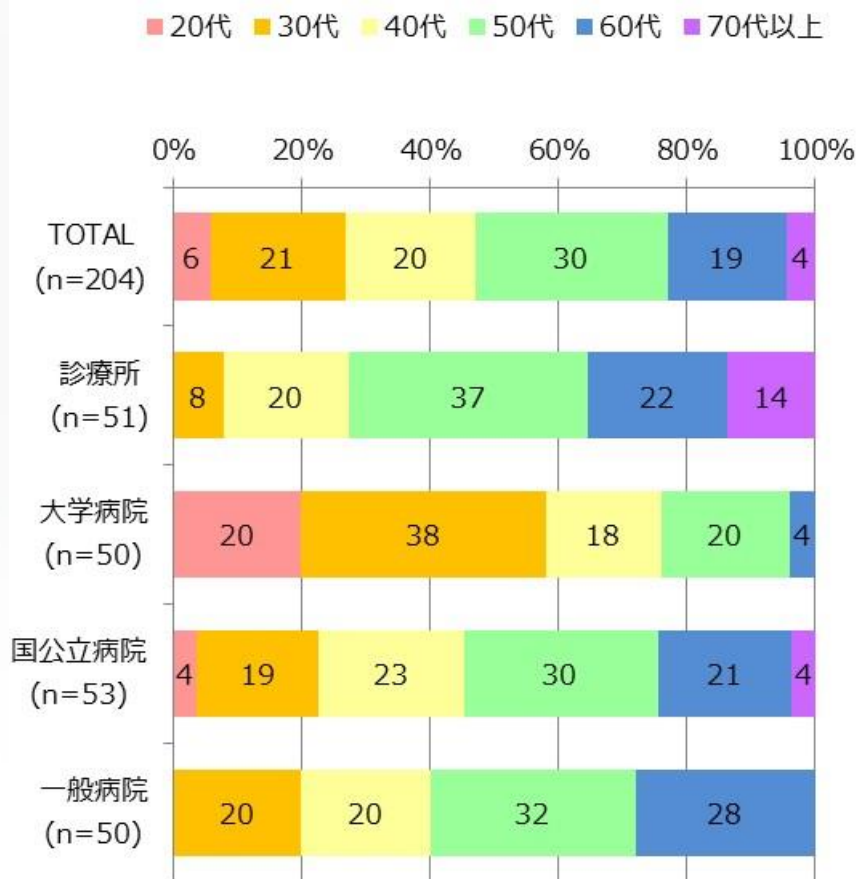
- 本調査に回答した一般内科の医師のうち、2022年4月以降の3ヶ月間でリフィル処方箋の発行を行った経験のある医師は全体（204名）の19%であった。浸透しているとは言い難い状況である。
 - 大学病院に所属する医師は、該当の割合が32%で他のセグメントよりも多かった。
- リフィル処方箋の処方が適する患者像では目立って多く回答されるものはなかったが、「遠方からの通院患者（46%）」「仕事をしている患者（42%）」が上位を占めている。
- リフィル処方箋の発行経験がある38名のうち、60%の医師は主に患者希望によって発行に至ることが多いとした。
- また総使用回数の上限が3回であるリフィル処方箋において、使用回数を2回までに制限した患者がいた医師は38名のうち33名（87%）であった。
- 今後のリフィル処方箋の発行については、全体の40%の医師が「どちらともいえない」と回答しており、最も多い。ただし「診療所勤務医師（57%）」や「施設経営に関わる医師（46%）」においては「積極的に実施したくない」の強くネガティブな回答が他のセグメントと比較しても多くなっている。
 - リフィル処方箋の発行に対して積極的ではない理由としては、「医療従事者が患者さんの状態の変化に気づきにくくなるから（52%）」が最も多くなっているが、診療所勤務医では「施設の経営に影響があるから（40%）」も上位の理由となっている。

調査概要

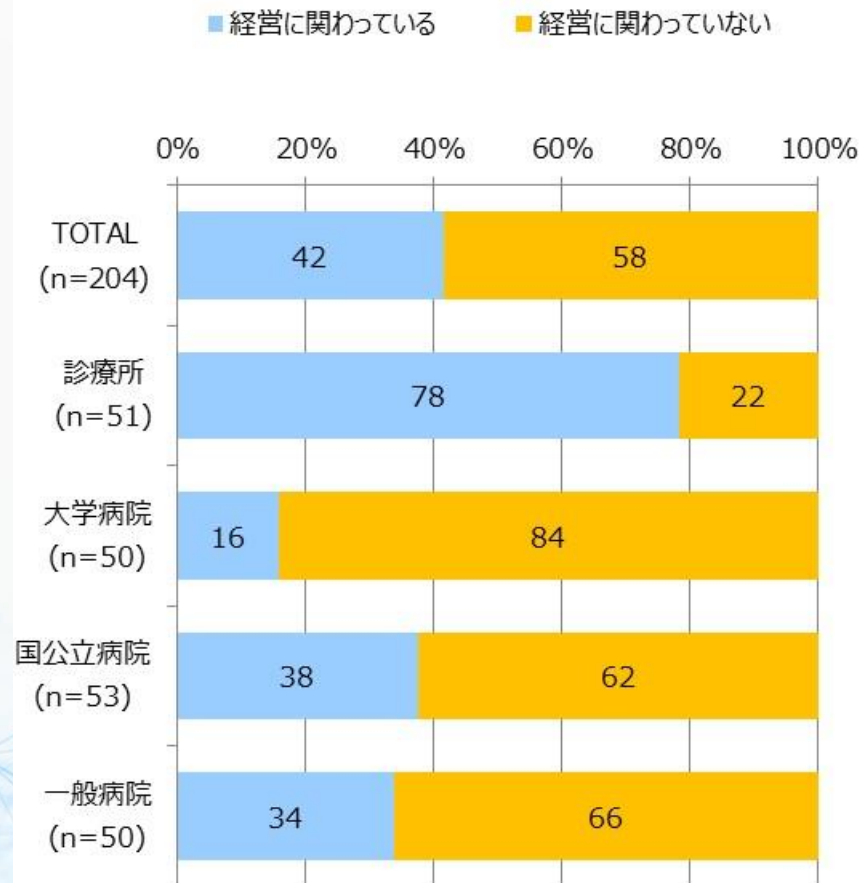
調査主体	株式会社インテージヘルスケア Quick Survey室
調査手法	インターネット調査（TenQuick使用）
調査地域	全国
調査実施時期	2022年7月5～7日
調査者対象	<ul style="list-style-type: none">➤ プラメド医師パネル➤ 日常的に診療を行っている一般内科の医師
サンプル数	<ul style="list-style-type: none">➤ 204s<ul style="list-style-type: none">➤ 診療所：51s➤ 大学病院：50s➤ 国公立病院：53s➤ 一般病院：50s

対象者属性 (※施設形態別)

年代



施設の経営への関わり

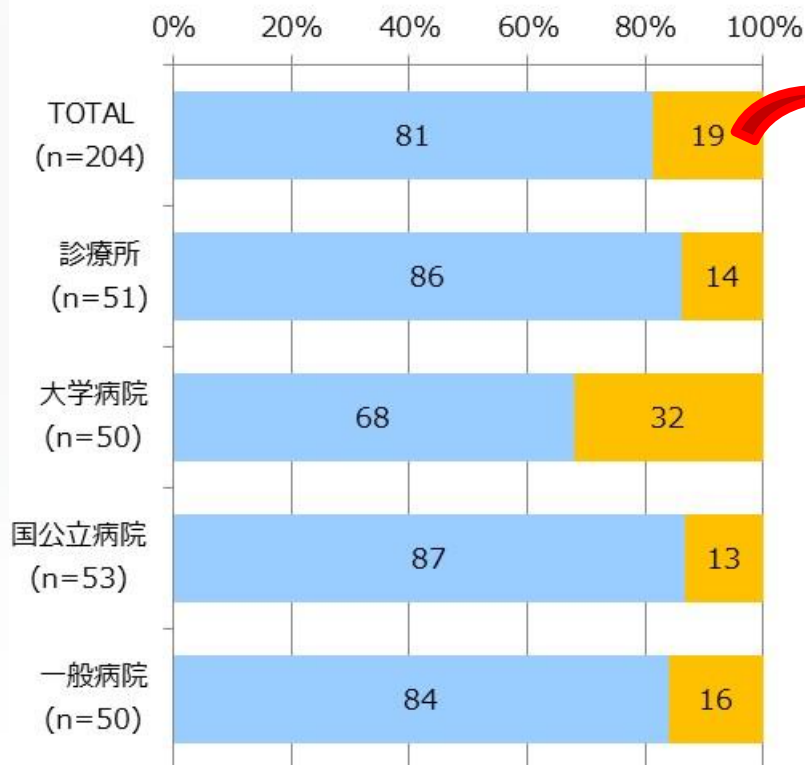


結果詳細 (※抜粋)

2022年4月以降（3ヶ月間）でのリフィル処方箋の発行経験の有無 リフィル処方箋発行に至るきっかけで最も多かったもの

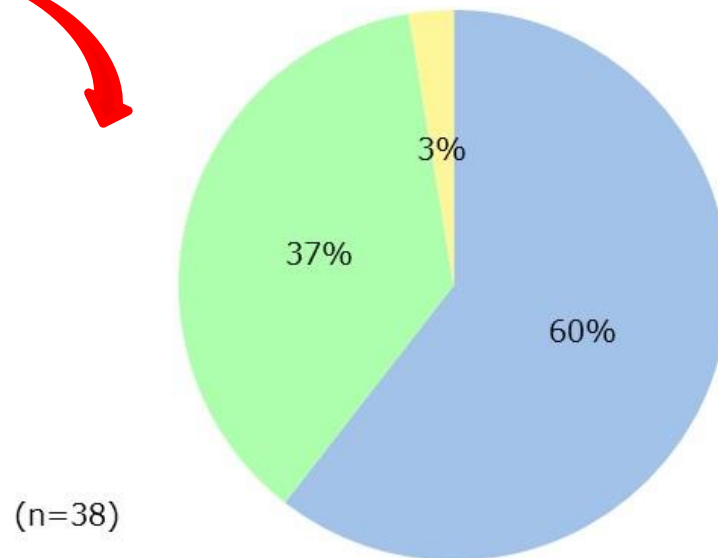
リフィル処方箋発行経験の有無

■ 発行経験なし ■ 発行経験あり



発行に至るきっかけで最も多いもの

■ 対象となる患者さん自ら、先生に対して質問したり発行の希望があった
■ 先生から説明した
■ その他



※発行経験あり医師に限定

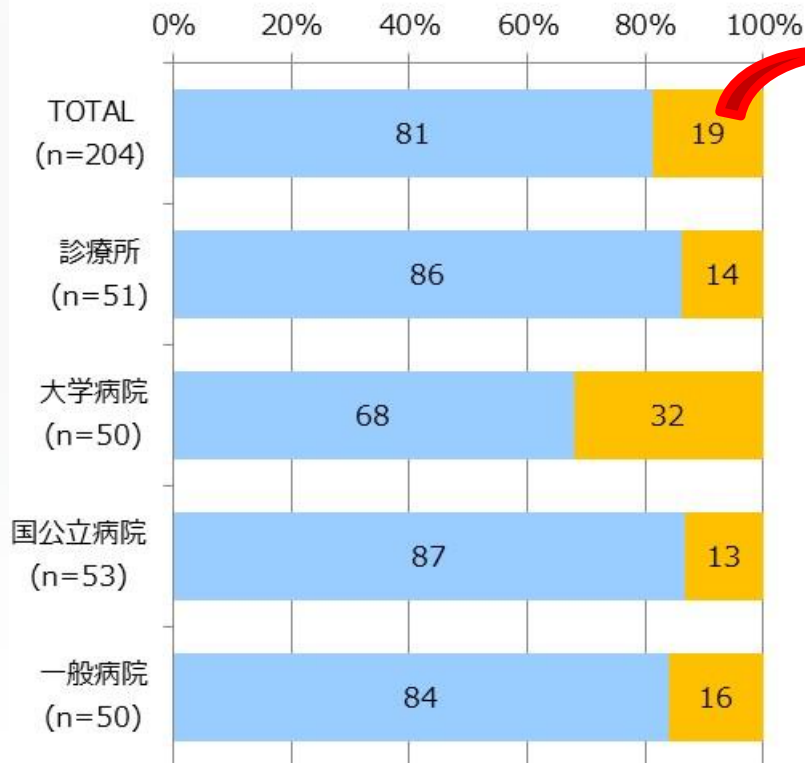
Q2：2022年4月以降（最近3ヶ月間）で診療した患者さんを100として、リフィル処方箋を発行した患者さんの割合をお知らせください。

Q3：最近3ヶ月間でリフィル処方箋を発行した患者さんは、どのようなことから発行に至る場合が多かったでしょうか。最もあてはまるものをお知らせください。

2022年4月以降（3ヶ月間）でのリフィル処方箋の発行経験の有無 リフィル処方箋発行時に使用回数の上限を2回までとした患者の有無

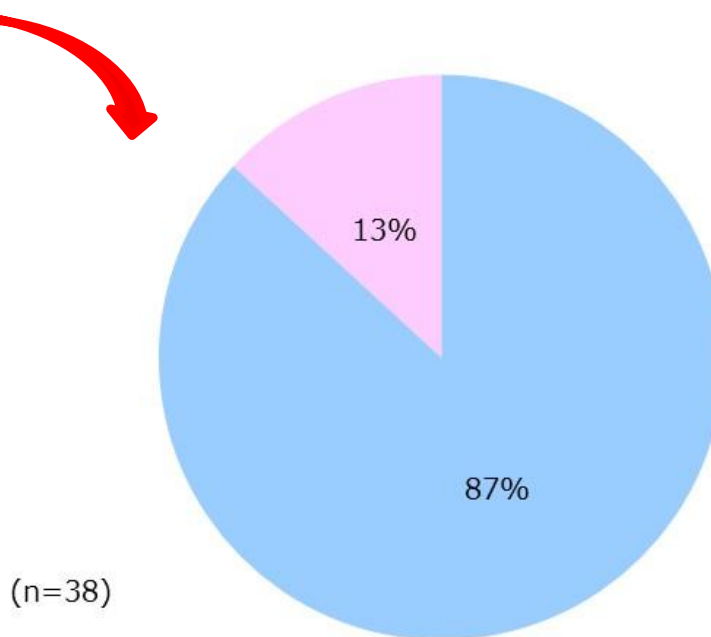
リフィル処方箋発行経験の有無

■ 発行経験なし ■ 発行経験あり



使用回数の上限を
2回までとした患者の有無

■ 対象患者あり ■ 対象患者なし



※発行経験あり医師に限定

Q2：2022年4月以降（最近3ヶ月間）で診療した患者さんを100として、リフィル処方箋を発行した患者さんの割合をお知らせください。

Q4：リフィル処方箋の総使用回数の上限は3回です。最近3ヶ月間でリフィル処方箋を発行した患者さんを100として、先生のご判断で2回までとした患者さんの割合をお知らせください。

リフィル処方箋の仕組みが設けられたことによる薬剤師との関わり

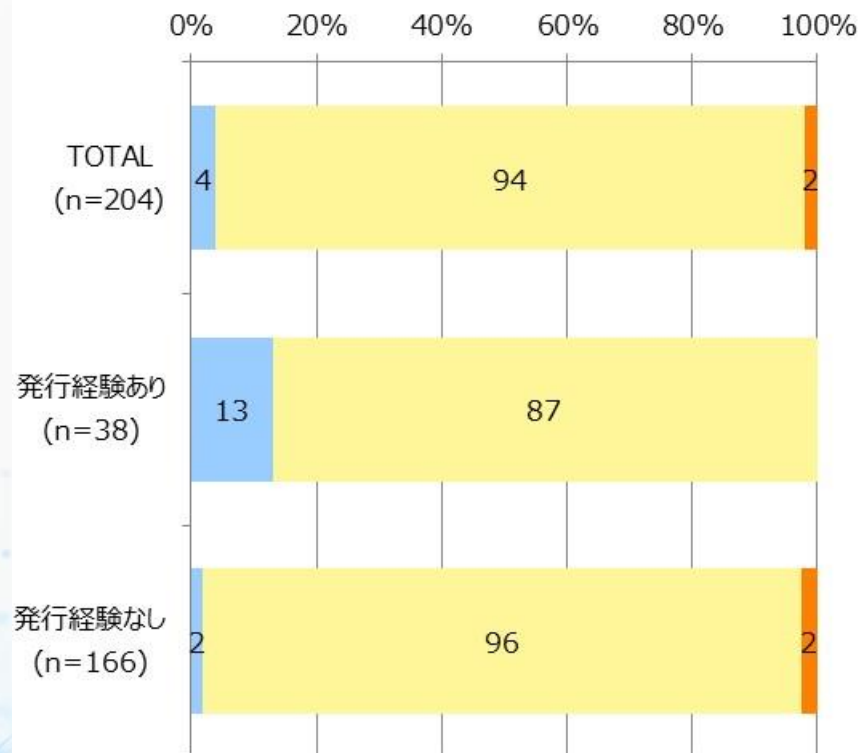
施設形態別

■ 関わる時間が増えた ■ 変わりはなかった ■ 関わる時間が減った



リフィル処方箋発行経験別

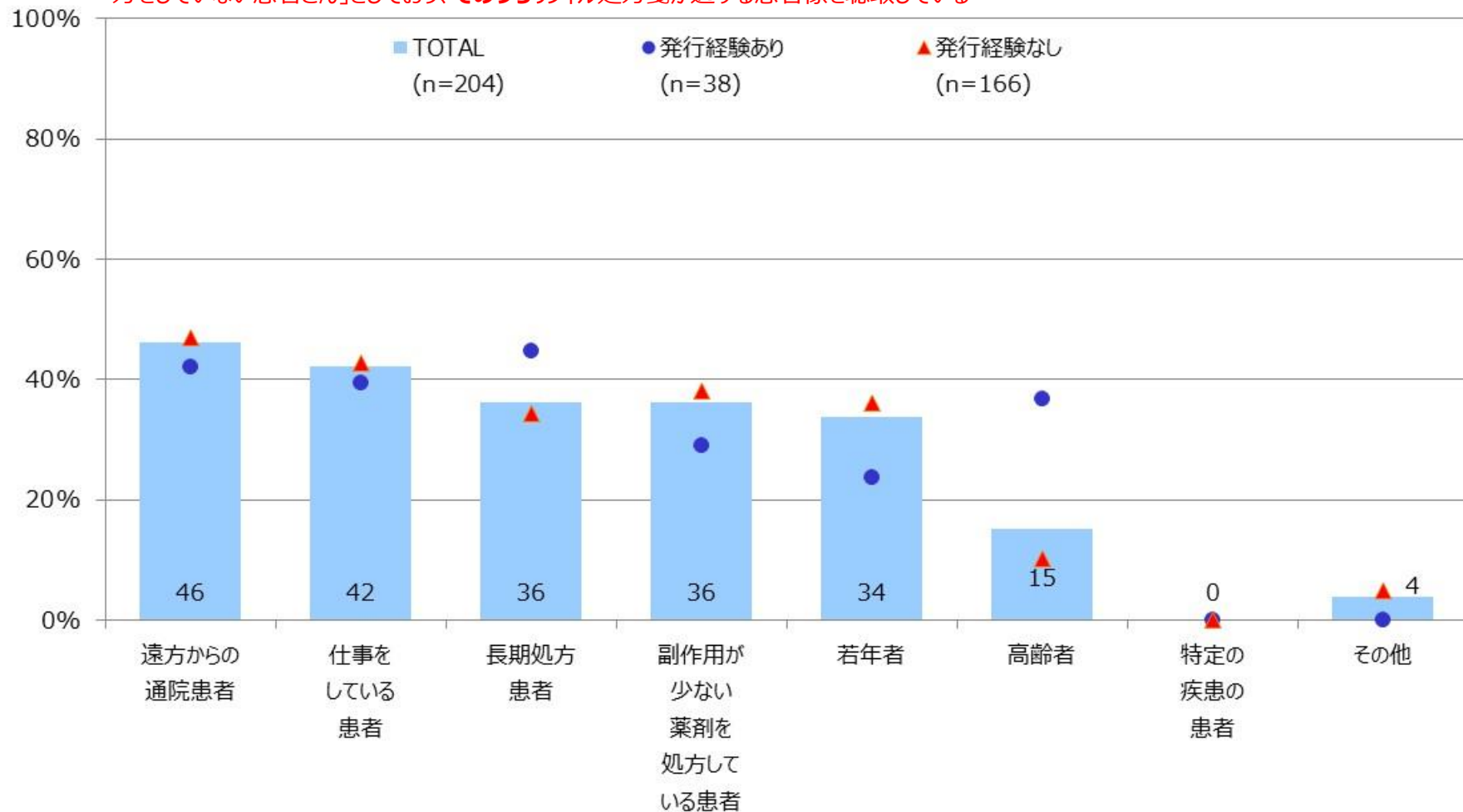
■ 関わる時間が増えた ■ 変わりはなかった ■ 関わる時間が減った



Q9：リフィル処方箋の仕組みが設けられたことで、薬剤師と関わり（勉強会なども含む）を持つ時間に変化はありましたか。

症状が安定している患者のうち、 リフィル処方箋が適すると思う患者像とは

※ここでは、リフィル処方箋の発行の対象となり得る患者さんを「症状が安定しており、投薬量に限度が定められている医薬品及び湿布薬の処方をしていない患者さん」としており、**そのうち**リフィル処方箋が適する患者像を聴取している



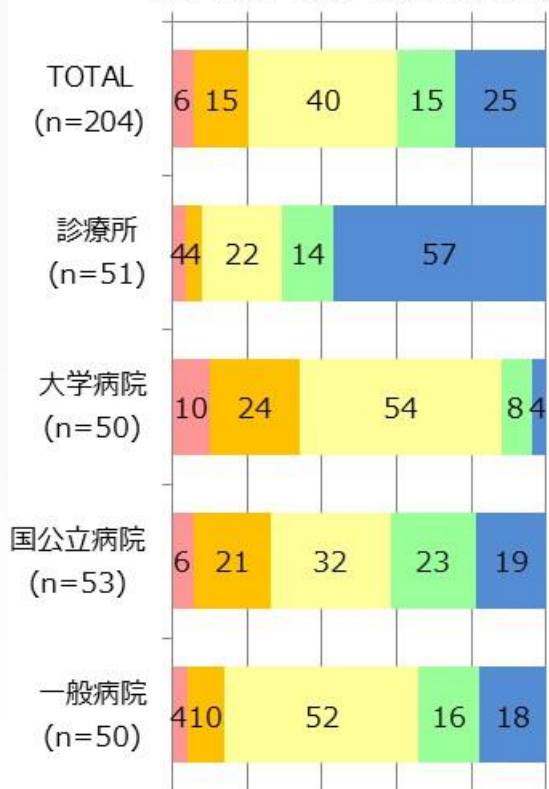
Q8：先生はリフィル処方箋の発行の対象となり得る患者さん（症状が安定しており、投薬量に限度が定められている医薬品及び湿布薬の処方をしていない）のうち、どのような患者さんがリフィル処方箋に適していると思いますか。あてはまるものをすべてお知らせください。

<今後> リフィル処方箋の発行に対する実施意向

経営形態別

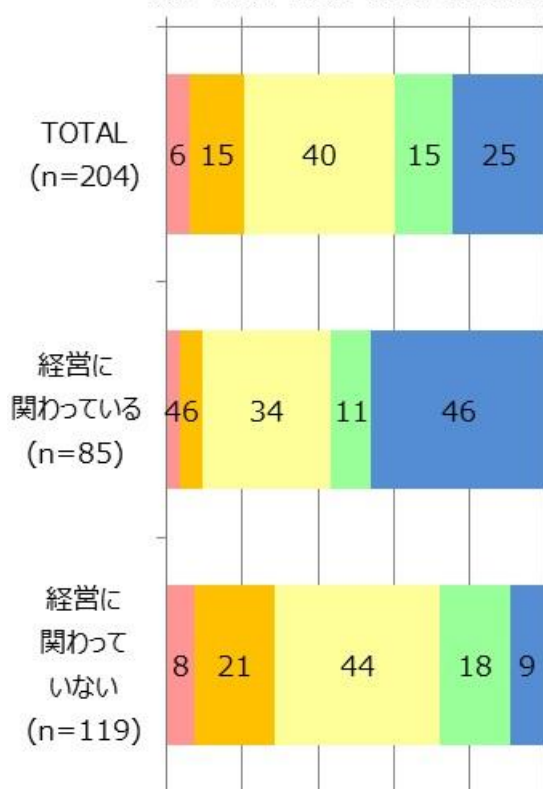
■ 積極的に実施したい ■ やや積極的に実施したい ■ どちらともいえない ■ あまり積極的に実施したくない ■ 積極的に実施したくない

0% 20% 40% 60% 80% 100%



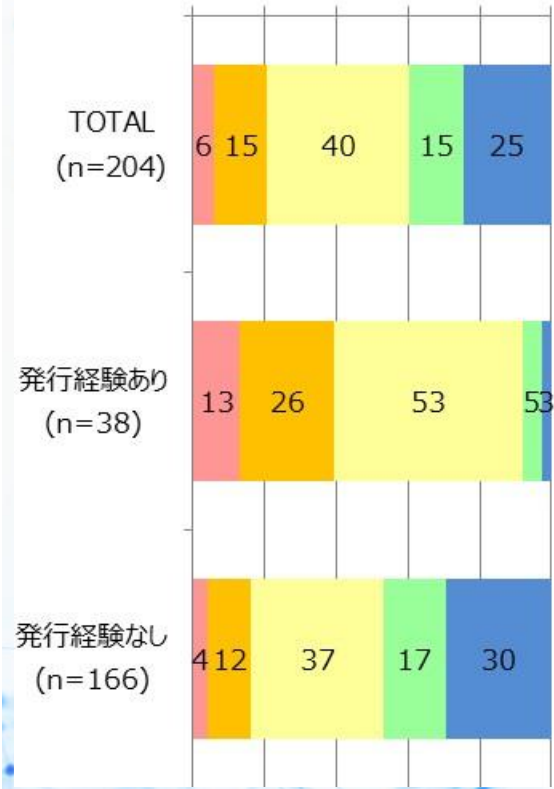
施設の経営への関わり別

0% 20% 40% 60% 80% 100%



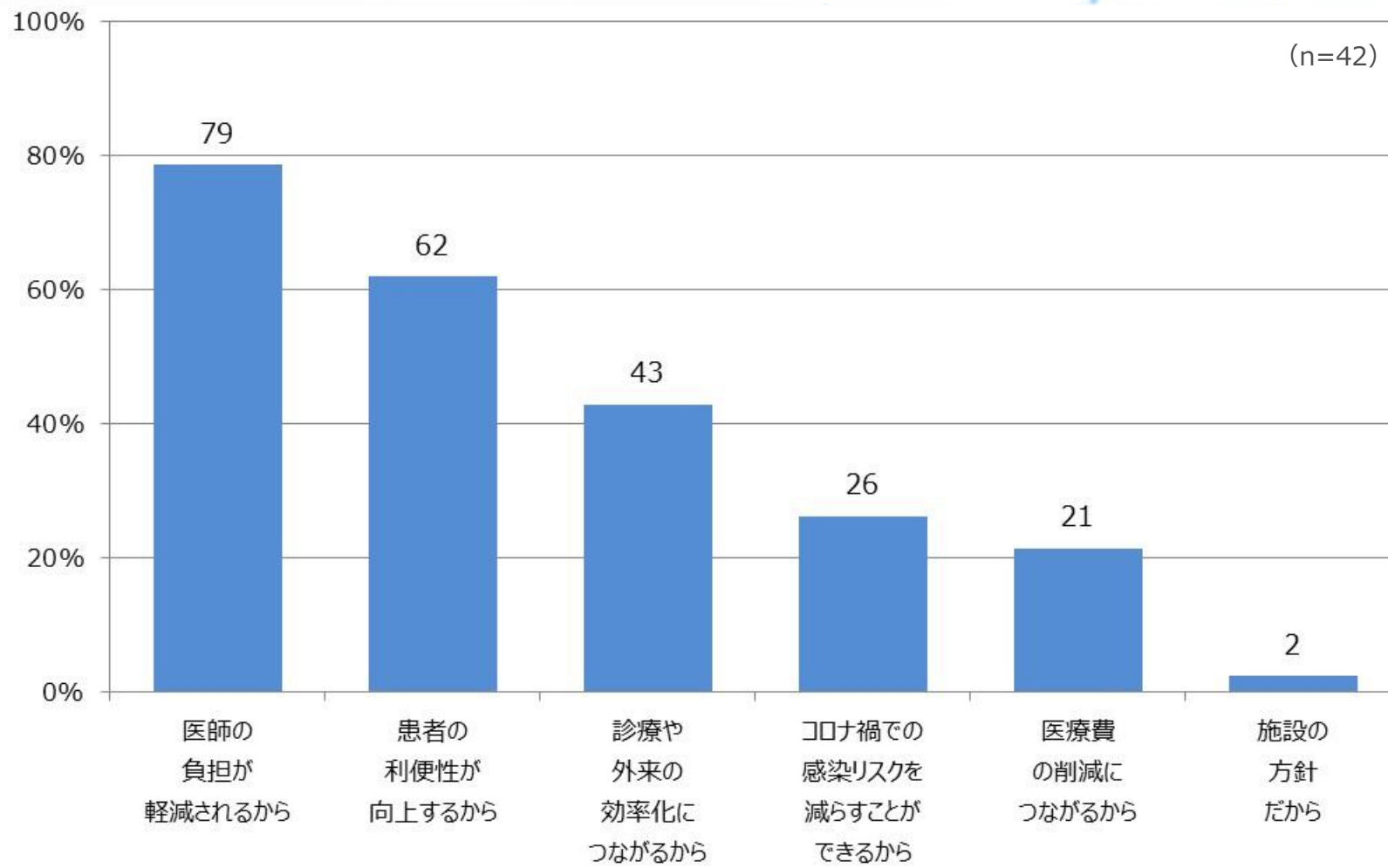
発行経験の有無別

0% 20% 40% 60% 80% 100%



Q5：先生はリフィル処方箋の発行の対象となる患者さんに対して、今後積極的に実施していこうと思いますか。先生のご意向にあてはまるものをお知らせください。

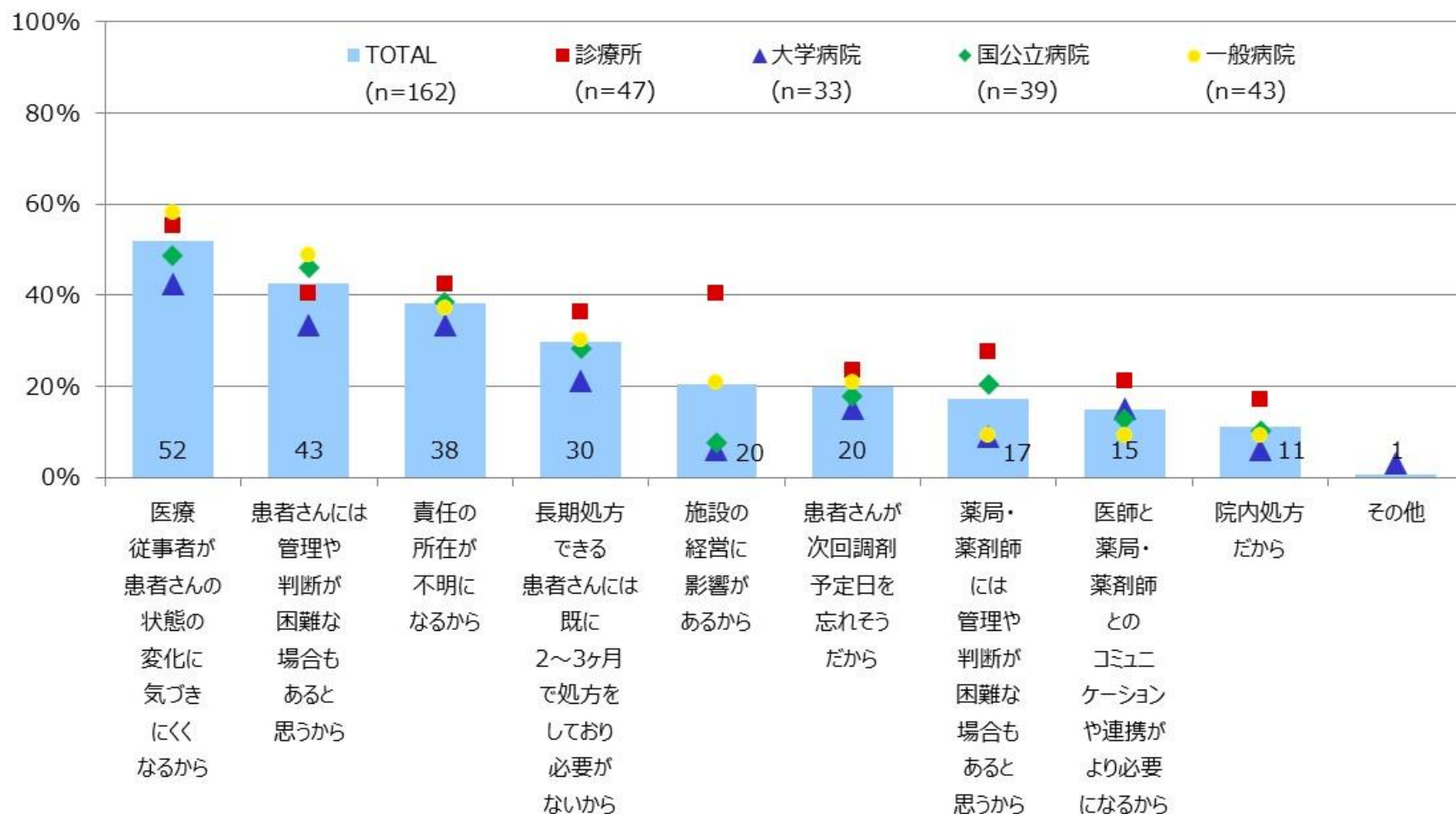
〈今後〉リフィル処方箋の発行に積極的な理由



※今後の実施意向（Q5）において「積極的に実施したい」「やや積極的に実施したい」と回答した医師に限定

Q6：先程先生は今後のリフィル処方箋の発行について、「Q5引用」と回答されました。その理由としてあてはまるものをすべてお知らせください。

〈今後〉リフィル処方箋の発行に積極的ではない理由



※今後の実施意向 (Q5) において「どちらともいえない」「あまり積極的に実施したくない」「積極的に実施したくない」と回答した医師に限定
 Q7: 先程先生は今後のリフィル処方箋の発行について、「Q5引用」と回答されました。その理由としてあてはまるものをすべてお知らせください。

Healthier Decisions

我々は情報に命を与え、医療を楽しむ人、医療を提供する人、
健康を願うすべての人々が納得の選択をするための力となります

 **intage** 株式会社インテージヘルスケア

「TenQuick」に関するお問い合わせ・ご連絡先

株式会社インテージヘルスケア
QuickSurvey室

[本社] 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ13階
TEL: 03-5295-1655
Email: ant-tenquick@intage.com